

発行所  
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛  
笠岡市用之江377  
郵便番号714-0066  
(0865)

電話 66-1311  
FAX 66-1314

# かさおか



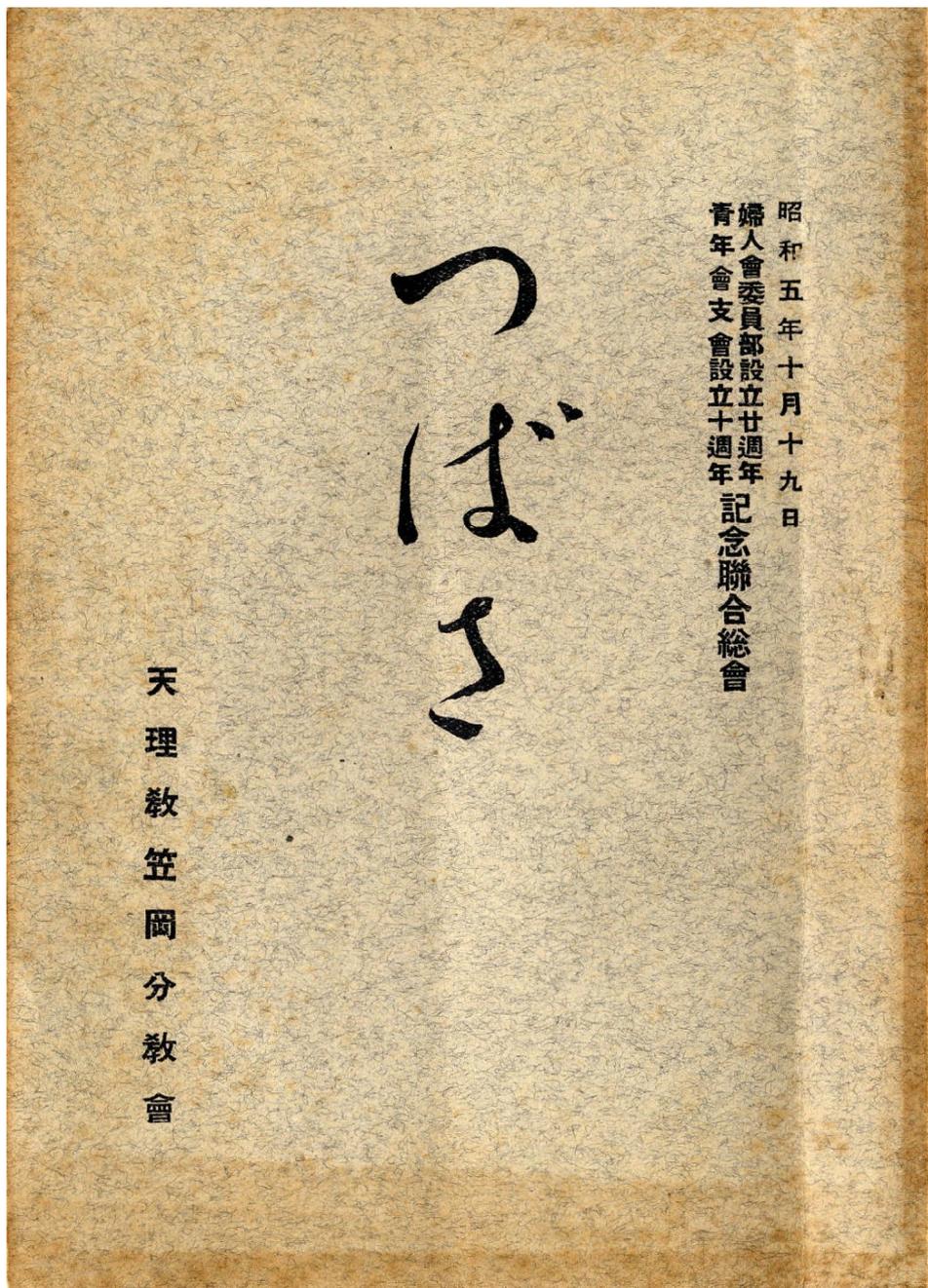
梅鉢の提灯

## おつとめ奉仕者の増員

- ・一人ひとりが日々に真実を尽す
- ・布教によるおつとめ奉仕者の増加
- ・後継者講習会への参加による奉仕者の増加
- ・おぢばへの伏せ込みひのきしん

立教171年  
4月号





昭和五年十月十九日  
婦人会委員部設立廿週年  
青年會支會設立十週年  
記念聯合總會

天理教 笠岡分教會

ここに「つばさ」と題した一冊の小冊子がある。題名の肩に「婦人会笠岡委員部設置二十周年・青年会笠岡支会設置十周年記念聯合總會」と記してある。聯合總會は昭和五年十月十九日、芦津大教会長・井筒貞彦、しまへご夫妻、又婦人会芦津支部委員・小川じう姉と青年会芦津分会主事・河合安三郎氏を迎えて開催された。小冊子はこのときの講師の講話に加筆訂正を入れ纏めたものと思われる。祝辞があったと思うが、そういう儀礼的な文章は一切排除されて、講師の話だけが収録されているのが気持ちよく、又当時の笠岡の緊張した様子が窺える。

昭和五年といえば、教会倍加運動提唱の教祖四十年祭、日本人更生運動提唱の教祖五十年祭のちょうど半ばの年である。笠岡は教会倍加を見事成し遂げて部内八十ヶ所の教会となった。そして昭和三年にはその余力をかって、笠岡始祖上原佐吉四十

## 是 教

さあく／＼たづねる處 國々の柱 だん  
じ柱 人間の目には 一寸の事と思へ  
ど 神の方ではなか／＼大そうやて

(明治十九年八月上原佐吉身上御願押て御伺)

前略 さあく／＼ かるく事上をさとそう  
たづね事上は たいそう／＼ たより  
まで／＼ ちば一つとりあつかい取次  
の事上 一寸さとしてやるがよいもふ  
たいそう／＼

(明治二十三年七月五日朝)

さあく／＼ わたそ／＼ じ上のはなし  
つたへてくれるよふ さづけ／＼ ど  
ふゆふさづけめづらしいさづけ か  
んろふだいのさづけ／＼ 受取れ／＼

(明治二十二年八月三日)

年祭及名称百ヶ所祝典を執り行った。つまり教祖四十年祭の昭和元年から三年間で二十ヶ所の教会を新設した事になる。又昭和二年五月十七日に笠岡創立四十周年記念祭を行い、その時史料展覧会を行った。このとき公開されたおさしづが「国の柱、談示柱」「甘露台のさづけ」「ちば取扱い取次ぎの事情」の三大さしづであった。笠岡は、ここに名称百ヶ所を率いて芦津大教会の中でも異色の布教活動、ちばへの伏込みを開始するのであるが、この「つばさ」に語られる五人の講話は、将に当時の笠岡の沸々たる思いの溢れたものである。

温故知新。当時の先生方の思いを活字で追ってみよう。尚この年の、それぞれの先生の年令をしるしておこう。三代会長・上原繁雄三十六歳、浅野弥三郎六十一歳、岡本久作五十九歳、川合梅太郎四十五歳、田中光次郎六十六歳。

婦人會として、はじめかけ、これ人間がはじめかけたのやない  
 神がはじめさしたのや、これはふるい道にかういふ理がある、  
 かういふ事があるとながひたがひけんきうはじめたらいかな理  
 ある、どんな理もある……たゞ年限ありて心に効なくばふるい  
 といへやうまい、効能なくばまあさうかいなどいふやうなもの  
 ……婦人會といふは、なんのためにするのや、ぎりでするやな  
 い、又人間のていきいであるやない、又世上にたいしてするや  
 なし、婦人會といふは、道はじめてたがひ／＼のさとしあいの  
 道おさめてやれ。

さあ〜尋る事上〜、さあ〜、如何なる事上、如何なる事情も尋ねにやわからん  
さあさあみんな是れたぶんの者連れ戻りたる處、なにかなしの日々ではとんとどふもな  
らん、幼少の時から萬事事上日々治め、すれば日々治め來る、さら〜飛びさがした理  
はあつめ來た、道理世上又順序一寸固りかけ、實際固まれば一人万人同じ心と云ふ、是  
れ鏡屋敷と云ふ、是れ迄とんとどふもならん、人にそ〜ふあつても其の儘置いておく、  
聞かん者如何もならん、万事人間心ばかりで天理王命と云ふ事ばかり結構分り、どう云  
ふ理から集りたる、世界の理、物が多分ある者と無き者と同じことではならん、よう聞  
分け、是から先年限長いと云へば長い、數へて見れば短い、よう聞分け何かの事人が知  
らんと思ふたとて知らん者はない、夜も晝も皆寫りてある、是れ第一の理、これからど  
うでも斯うでもだんないと云ふ様な事ではならん、それでは育てようと思たて育てられ  
んそこでほんの義理や体裁を以て治めては何んにもならぬ、十分治めようと思へばめん  
〜心次第、なんでもかでも力盡さにやならん、心盡せば固りて來る、少々では固める  
事出來ん、元々台と云ふ、台なしに働いてはならん、よう聞分け、蕾の花を活けたら一  
と先は見られるなれど日がたてばほかしてしもう、是れみなの中、話の台と云ふ、よう  
聞分け、月一度心の改め合ひ、語しのしあひ、心はづいぶん下行て、人の事してやると  
云ふ是れが点、ほつておいても人がするといふやうでは年限たつても同じ事是れ話して  
おく、尋ねる事情は十分聞取つて十分受取。

# 談話室



## しっかりと思案して

上小畠分教会長 田中 一矩

HさんとOさんは大の仲良しです。においがけをされるのも、教会に参拝されるのも、又どこかへ行かれる時も一緒です。ある日、いつものように二人揃って来られ、庭の草取りひのきしんをして下さいました。その後、おつとめを勤められました。終わった頃を見て神殿に入り時節の挨拶を交わしていると、家内が茶菓を持って来、Hさんに

は温かいお茶を、Oさんと私には冷たいお茶を出してくれました。しばらく四人で雑談をし、HさんとOさんは休息されて、それぞれの家に、帰って行かれました。

教祖伝逸話篇 一九六 子供の成人

教祖の仰せに、

「分からん子供が分からんのやない。親の教が届かんのや。親の教が、隅々まで届いたなら、子供の成人が分かるであろ。」と、繰り返し繰り返し、聞かして下された。お蔭によつて、分からん人も分かり、救からん人も救かり、難儀する人も難儀せぬよの道を、おつけ下されたのである。

たんくとなに事にてもこのよふわ  
神のからだやしやんしてみよ

## こころの詩

▼養徳社発行『陽気』誌三月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「道」、選六十句中、笠岡に繋がる教友の方一名、一句が見事選ばれ掲載されておりましたので転載させて頂きます。おめでとうございませう。

人位 東悠分教会前会長夫人 田林 美智子

## 親々の道ありてこそ今日の道

▼表紙の版画 東城分教会長 横山 逸郎氏

おふでさき三号 40・135のおうたです。このおうたにもある、しやんというお言葉が、心に掛かるおことば、であります。思案とは(一)あれこれ考えること。またその考え。(二)しんばい。ものおもい。苦心。私案とは、自分ひとりの考え。であります。教典の中に出てくるおふでさきの「しあん」の首をあげてみると

にちくくをやのしやんとゆうものわ

たすけるもよふばかりをもてる 十四号 35

にんけんも共かわいであるをがな

それをふもをてしやんしてくれ 十四号 34

しやんして心さためてついてこい

すゑハたのもしみちがあるぞや 五号 24

めへくハがみしやんハいらんもの

神がそれくみわけするぞや 五号 4

いまくハせかいぢううハ一れつに

めゑくしやんをしてわいれども 十二号 89

なさけないとのよにしやんしたとても

人をたすける心ないので 十二号 90

わかるよふむねのうちよりしやんせよ

人たすけたらわがみたすかる 三号 47

とあります。みかぐらうたにも、四下り目七ッ、

八下り目六ッ、九下り目五ッ・七ッにお述べ下さ

れています。

そしておふでさき十七号75のおうた

これをはな一れつ心しやんたのむで

と、皆の者はよく思案せよ、と仰せになっている。

ここの処をよく思案して、我々は、神意に背かぬ

よう、神意の急き込みに遅れぬよう、しっかりと

神一条の御教えを体して、たすけ一条の道に勇ん

で進まして頂かねばならぬ。と解釈して頂いてお

ります。しっかりと思案の心を持ち通らせて頂きた

いと思っております。

# 第十七次 後継者講習会を終えて

福満分教会 壇 上 剛 之

講習を受講して感じたことは、練り合いの時間が多いので、どのような体験をするかはその班に依存する所が大きいと感じました。私の班(7人)では、教会、布教所の後継者の方、又は結婚をきっかけに信仰を知った初代の方、身上・事情で入信された方など立場の異なる方々と一緒にになり、色々と勉強させて頂きました。その中で、改めて心の使い方、考え方を見直す機会ができて本当によかったと思います。

10年前にも受講しましたが、今回はこちらの姿勢の違いもあるとは思いますが、自身の濃い講習会でした。素直な心、喜びの心、考え方など、普段の生活に関わることを掘り下げて考えられたと思います。

少しずつでも、教会に足を運び、喜んで頂けるよう成人して行こうと思いません。  
私にとって素晴らしい講習会となりました。

## 第806期修養科募集要項

### \*修養科期間

立教171年6月1日～8月27日

### \*教 養 掛

3ヶ月間 西 江 昌 直 (大教会役員・金 浦 分教会長)  
1ヶ月目 藤 井 宣 人 (福東分教会前会長)  
2ヶ月目 佐 藤 憲 美 (久 福 分教会長)  
3ヶ月目 田 淵 光 明 (上 備 分教会長)

### \*募集要項

- ・志願者は、6月末日現在で満17歳以上で、下表の必要書類を携え、上級教会を經由して大教会に順序参拝すること。
- ・5月25日までに笠岡詰所に入所し、教養掛の面接を受けること。
- ・3ヶ月の修養期間を修了後は、大教会での修養科修了講習会を受講し、8月29日の昼食後に解散。

### \*教 科 書 (必須)

『おふでさき』、『みかぐらうた』、『天理教教典』、『稿本天理教教祖伝』、『よふぼく手帳』。

### \*参 考 書 (出来れば持参)

『おてふり概要』、『なりもの練習譜』(笛・打楽器または三曲)、『おやしき・史跡案内』。

### \*携 行 品

おつとめの扇、筆記用具、認印、笛(男鳴物の講義で笛と小鼓の内、笛を選択する人のみ)。

### \*服 装

ハッピー及び帯・バンド、長ズボン(又は、それに類するもの)、靴。

| 書 類         | 大教会 | 詰所 | 備 考                                |
|-------------|-----|----|------------------------------------|
| 「順序参拝票」     | ○   | ○  |                                    |
| 「別 席 願」     | ○   | ○  | ・「初席願」の順序参拝がまだの者で、修養科入学後に初席を運ぶ者のみ。 |
| 「席 札」       |     | ○  |                                    |
| 「別席のしおり」    | ○   | ○  | ・願書に日付を入れない事。                      |
| 大教会 御供      | ○   |    | ・おさづけの理拝戴願の順序参拝も合せて行なう。            |
| 本 部 御供      |     | ○  | ・「別席の誓いの言葉」は別席の誓いの日までに覚えること。       |
| 「おさづけの理拝戴願」 | ○   | ○  | ・「おさづけの理拝戴願」の順序参拝がまだの者のみ。          |
| 「おはなし」      | ○   |    |                                    |
| 大教会 御供      | ○   |    | ・願書に日付を入れない事。                      |
| 本 部 御供      |     | ○  |                                    |
| 「修養科入学願」    |     | ○  | ・御供は任意であるが、慣例により、200円以上。           |
| 「修養科入学事由書」  |     | ○  |                                    |
| 修養科入学御供     | ○   |    |                                    |
| 「住民票」       |     | ○  |                                    |

◎第八〇〇期修養科

自 立教170年12月1日  
至 立教171年2月27日

\*教養掛

三ヶ月間 中村 剛

(久松分教会長)

一ヶ月目 藤井 治喜

(福節分教会長)

二ヶ月目 鳥井 利昭

(福勇分教会長)

三ヶ月目 三代 温生

(雲東分教会長)

\*修了者

笠岡 上原 一始

呉 照 小玉 克己

新山 邑 三島 なつ

大江 橋 三宅 友子

◎本部食堂ひのきしん

自 立教171年2月16日

至 立教171年2月29日

笠岡 徳山 毅

## 春季霊祭祭文

これの笠岡大教会の祖霊殿にお鎮まり下さいます

本席様の御霊 初代真柱様並びに奥様の御霊 二代真柱様の御霊 大教会創設の祖 上原佐吉大人 八重刀自の御霊 初代会長上原さと刀自の御霊 二代會長上原伊助大人光刀自の御霊 三代会長上原繁雄大人くに多刀自の御霊 四代会長上原郁雄大人の御霊 笠岡の草々の頃より歴代会長と共に多年に亘りご苦労下さいました役員 部内教会長 教人 よふぼく信者の御霊 諸々の御霊の前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

祖霊様方には 親神様教祖のお見定めを頂かれ 早くからこの道にお引き寄せになられ 生きの限りこの道をお通り下さいました しかしその道中は教祖ひながたの万分の一でも辿りたいと自ら進んで艱難苦勞の道を通られましたので決して楽なものではありませんでした しかしながらどんな中にあっても心倒す事なく むしろ親に凭れひながたを辿れると楽しみ勇んで通られました 今日お道は結構な姿をお見せ頂いております これもひとえに親神様教祖の御守護お導きの賜でございますが 又一つには祖霊様方のそうした真実誠の伏せ込み理作りが 親神様教祖のお心に適いお受け取り頂いたお陰と 朝夕に御礼を申し上げます その中でも本日は春の霊祭を執り行う定めの日柄でございますので 御前に旬の種々の物を供えて只今は親神様の御前にて おつとめ奉仕者並びに代表の部内教会長心を一つに揃えててをどりをつとめさせて頂き 引き続き御前に参らせて頂きましたありし日の面影を偲び御遺徳を称えて 改めて御生前の御苦勞に御礼申し上げます

今私共は次の塚教祖百三十年祭を目指し おつとめ奉仕者増員を合い言葉に よふぼく一人一人が日々に真実の理作りに励みつつ 道の後継者育成を念頭にたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

何卒祖霊様方には 頼りない歩みと思われるかもしれませんが 御心放たずお見守り下さいまして たとえ歩みは遅くとも確実な成人の歩みになりますようお願い添えの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

年の所為か、今冬は厳しい寒い年と感じた。

例年早咲きの保育所の桜も、三月上旬では枯れ木同然の小さな固い蕾であったがここ数日の暖かさに膨らみを増し、開花の近づきを感じるようになった。

今年の花見は、何処にしようか、と考えるだけで楽しい毎日である。厳しい冬であればあるほど、暖かい春への期待は高まり楽しみも一段と増すものだ。

元気で花見など楽しませて頂けるのも、親神様のご守護あってのこと、この喜びに報謝せねばなりません。

幸い、四月末は全教一斉ひのきしんデーがあります。自分の身をもって、皆に平等に頂いた時間の一部をお供えすることが、ひのきしんと聞かせて頂いています。今年も、家族や知人を誘い合せて、全教一斉ひのきしんデーに参加し、陽春の下でよい汗を掻きましょう。

よくをわすれてひのきしん  
これがだいいちこえとなる

